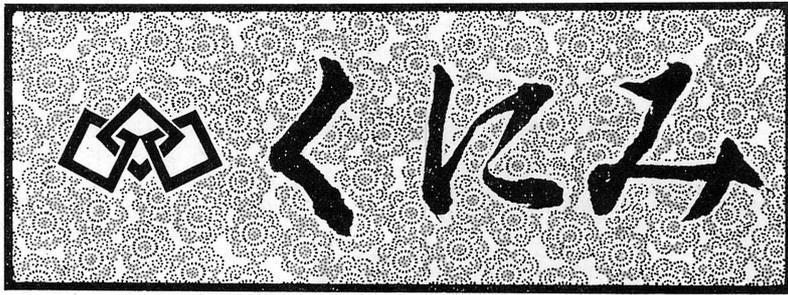


人口と世帯数	
男	5,896人
女	6,127人
計	12,023人
世帯数	2,690世帯
48.3.1 現在	



規律正しくほがらかに

はげましあつて豊かな研修

より美しくよりたくましく

昭和四十七年度青年宿泊研修会

(於 国立磐梯青年の家)

この研修会は、第七回目を迎えて今年度は、青年の家の施設、設備を活用し、共同生活をしながら青年団活動のあり方、進め方について研修討議を行いました、体育レクリエーションを通じて、友情を深めあい創造的な青年の活動力を高める目的から二泊三日で公民館共催で開催された。

青年の皆さんあなたも青年会で活動しませんか



青年宿泊研修会に参加して

有意義な

青春の体験

より積極的に

二月二十三日より白銀の磐梯青年の家に入る。今思うに今回の研修会ほど充実した研修会はなかったような気がした。参加者全員の心に今までの青年会活動の姿を反省し、悩み、今後どうしたらよいかを切実に感じていたからだと思はる。自分自身についても会長と言う職責にありながら今まではただなんとなくという責任のなさがつくづく反省させられた。しかしこれを機にファイトがわいた。二泊ではあったが同じ時間を共にし人と人との交友と人間味が一層深められた。こうして一人一人を見るときは皆すばらしきかなという感じがする。日常生活のつみ重ねによって一つ一つ前進していかねばという気がする。自分から運命を切り開くのも英雄かも知れないが、自分は与えられた生活、仕事をじっと受けとめていく人のひかえめな勇気も、もつと美しいことと思う時がある。人間は苦しみ迷うべきものなのである。そうやすやすと救われたりするものではない。今の平和な時代において私達が戦うべきことは私達自身の中にあるような気がした。今回の研修会の内容を自分ばかり良かった良かったとしまっておかないで、参加できなかった人達にもよく話し合い今後の活動の足がかりにして行こうと思う。最後にこの研修会の運営にあたって公民館の暖い御支援ありがとうございました。

青年連絡協議会会長 八島 敏雄

恒例とも云える会員研修会も毎年参加して、今回で四、五回になる。青年会活動に様々な問題が発生して、大きな壁につきあたったような状態の中で行われた。毎年の研修会では、それらの問題をどのように解決するかと云うことが必ず話題になった。しかし、いずれも決定的な解決策は考え出されず、「青年会活動の現状と問題点」と云う題で話をすれば、その終末が「会員の自覚がない」と云うことになるのが通り相場と云う感もあった。しかし今回は大分違っていた。議論は白熱し、問題の根本原因が、社会問題等の広い視野から探究された感じで、冷静な分析が大分深いところまでなされていた。多くの問題の原因がどこにあるのか、大体見当はつかめたようである。これからは、今までの原因分析の上に立つて、新たな充実した青年活動を考え出すべき時期である。それが、うまくゆかどうかはやってみなくては解らない。しかし、青年の家での白熱した話し合いを通して仲間達の認識の深さに頼もしさを感じ、また青年活動に問題があることはともかく、その問題解決を本気で話し合ったこと自体、有意義な青春の体験となるだろう。唯独りでは考えられなかったことが、仲間と話しあえば、二倍も三倍も広い視野で考えることができる。社会連帯性の失われつつある今日、青年活動の持つ意味あいをさらに深く認識させられた。

石母田青年会 佐藤 英世

感激の祭典

森江野小学校創立百年祭式典

明治五年学制発布の翌年、すなわち明治六年十月六日、徳江観音寺に伊達崎支校が開設されたが、翌年七月独立し、徳江小学校として本地区に始めて小学校が開校された。以来本年でちょうど百年を迎えたわけである。その間に幾多の変遷があったことはいうまでもない。しかしけわしい道程であったにせよ栄光の歴史であった。

(写真 記念式典)



たといふことができる。現在の森江野小学校の姿を見るにつけ、昔をしのび先人の偉業を讃えるところも、将来の発展を祈念すべくここに地区民一丸となつて創立百年祭の挙行となつたものである。

記念式典は、二月十八日(日)午前十時から本講堂において来賓、地区民、児童全員約三百五十人の参列のもと感激裡に挙行された。

まず齋藤副委員長の開式の辞には、君が代斉唱、佐藤町長、村上会長の式辞、大津會計の経過報告、学長のあいさつ、あ后感謝状贈呈、児童への記念品授与があり、つづいて岩谷教育長殿、

東海林議長殿から御祝辞をいただいた。受賞者代表として佐藤前校長さんから謝辞のあと全児童による創立百年祭をたたえることばと歌唱があった。

すなわち全児童を代表して佐久間道子児童会長が創立百年をたたえることばを朗読し、全児童によって森江野小学校創立百年の歌および校歌が高らかに歌われ、式典は最高潮に達した。

閉式のことばに引きつづき記念事業のひとつとして贈られたトランペット、鼓隊の披露演奏が五、六年全員によって行なわれたが、心をこめて演奏は式場を感激のつぼと化した観があった。

式典につづき午後からは記念祝賀会が催された。なつかしい旧知、友人、先輩後輩がしばらくぶりに一堂に会しさまざまな思い出話、しはつきるともなく歓談にしばし時を忘れたが大津顧問の万才三唱、八巻事業委員長の閉会の辞でとどこうりなく感激の式典および祝賀会のすべてを終了した。

記念式において感謝状をうけられた方は次のとおりである。

◎教育功労者
歴代校長―佐藤七郎 菅井庄蔵
歴代PTA会長―佐藤甫

窪田正敏 大波治男 大津義隆 村上公月 大津昭一

村・町会議員―大津利一 広居栄之助 佐藤儀助 菊地惣右エ門 蓬田勝 遠藤久吉 宋戸武雄 菊地唯七 武田武夫 吉田伊勢次郎 村上太一 佐藤新七 大波久 徳江喜一 佐野正治 賀藤貞 佐久間正寛 齋藤勸吉 宋戸三郎

教職員―田辺一郎 佐藤治男 市川多門 佐藤昭雄 新井愛子 穂積隆亮 富田悦郎 佐久間恭子 菊地ヤス 菅野哲男 菊田芳宏 宮口鉄男 佐藤トシエ 菱沼フチ 伊藤八重子 佐藤幸子

◎特別協力者
齋藤光吉 大津利一 高橋徳治 松浦隆夫

(写真 体育山)

この創立百年祭は地域の各界を網羅した構成により、昨年五月百年祭協賛会として発足し、九月に実行委員会と改称した創立百年実行委員会が地域の全面的な支援を受けながら記念事業を策定し、同時に協賛費の募金を考え、実践に当たってきたものであるが地区民一丸となった理解と協力、並びに地区外在住の同窓生の協力によりその協賛金は実に一七〇万円余に達した。

(地区内百十万円、四五四戸、地区外六十万八千円、三四三名)その他労力奉仕など金銭に代え難いものがああり、記念樹を始め物品を寄贈して下さった方々にも深く感謝の意を捧げたい。またこの百年祭を通じて常に深い御理解と御援助いただいた、教育委員会の方々に改めて心から感謝申し上げます。

つきに創立百年祭の記念

おめでと〜いす (二月中出生届をされた方 敬称略す)			
出生日	氏名	親名と続柄	住 所
1、27	星野 和弘	勝男の3男	光明寺滝沢17
28	大沼 禎久	忠行の3男	貝田柿場20
31	松浦 隆	勝美の長男	西大枝石田12
2、3	佐藤 和憲	正和の長男	西大枝入ノ内1のイ
5	松浦 秀幸	博の2男	藤田南37
5	赤坂 幸江	兵作の2女	内谷西脇43
7	佐藤美代子	久男の2女	石母田横町14
14	阿部 圭一	正の長男	石母田樋口55
14	松浦 静子	鉄雄の2女	石母田寺西ノ内8の4
17	松浦 毅	俊彦の2男	石母田上原38

行事、並びに記念事業の項目のみを記して御礼のことばに代えます。

◎記念行事
*創立百年記念式典ならびに祝賀会
*記念学習発表会・児童作品展
*地区民球技大会(ソフト・バレ大会)
…四月実施予定

◎記念事業
*校庭拡張に伴う体育山の構築…整備
*記念誌「森江野小学校創立百年のあゆみ」の編纂、発行
*岩石園の構築
*記念樹「せんたん」植樹
*トランペット鼓隊編成

*歴代校長写真補充掲額
*記念碑の建立
※記念碑は三月二十五日除幕式を挙行、式後創立百年祭実行委員会の解散式をする予定
(実行委員会会長村上公月記)

文化財保護のあり方を 研修する

国見町文化財調査委員一行（早田盛さん外七名）はこの六、七の両日、東京神奈川方面の文化財視察をした。わが町には石母田供養塔をはじめ厚樫山二重堀、塚野目古墳群など多数の文化財があり、その保護活動も盛んであった。ところが最近道路、鉄道、宅地、果樹園、ゴルフ場、工場敷地など経済開発が進むにつれて遺跡が発見され、あるいは破壊されている。又、町史編纂のための資料開発によってますます多くの文化財のあることが明らかになってきた。そこでこれらの祖先から伝わってきた貴重な文化遺産を保護顕彰し、これを後世にのこすための文化財保護行政はいかにあるべきかということについてその衝に当る調査委員で研修しようというのがこの旅行の目的である。プランによれば、六日七時福島を出発、まず東京都下国分寺市にある史跡公園、史料館万葉植物園等を見学、ついで川崎市向ヶ丘にある日本民家園を視察して横浜に泊り、七日は市内にある神奈川県立博物館と上野にある国立博物館で最高級の文化

財を鑑賞しようというもので、尚二日午後には福祉センター

に全員集合国分寺について予備学習をして出かけたので視察効果は倍加したものである。

郷研だより

古文書がすらすら

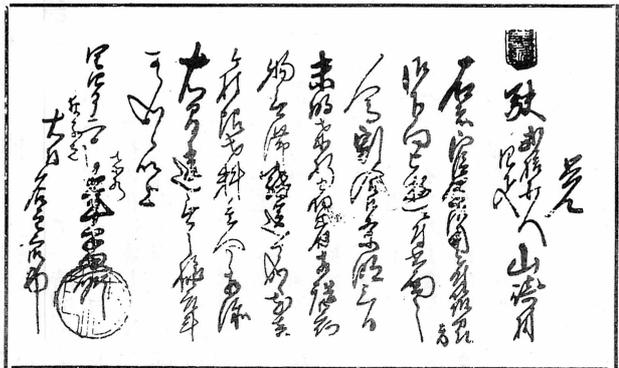
解読講習会

区長さん宅の押入れや部落の倉庫に山と積まれたり村の旧家などに先祖から伝わっている宝物と称する古文書類、読むに読まれず捨てるに捨てられずまことに困っているところが多い。昔の事を調べるには絶対無くてはならないところによつては邪魔になるからと売却したり、みんな



なで分配したり、中には焼いてしまったところもあるというところ。ところが歴史家からいうとこれはまことに貴重な資料で、昔の事を調べるには絶対無くてはならないところ。そこでわが国見町郷土史研究会ではこれらの古文書の解読講習会を開き、会員みんなでこの資料の山の解明に取り組むことにした。

二月二十八日午後一時から福祉センターに、県議会議務局鈴木俊夫氏（当町史編纂専門委員）を招き、五十六名の会員が集まって指導を受けた。テキストは現在町史編纂室に預



町史予約について

今秋刊行予定の国見町史第二巻（資料編1）の印刷準備を進めておりますが、無駄をはぶき、お互の便利を図るため、予約制による限定出版をすることになりました。つきましてはPR誌ご熟覧のうえ、挿入の予約申込書を使ってお申込みください。

- 予約申込書には部数・住所・氏名などを正確に記入し、はがきの部分を切りはなして代表者（部落長さんその他の方）にお渡しください。
- 今回発行するのは第2巻ですが、予約は全三巻についてしておかれた方がお互いに安心です。
- 頒布価格は一冊二五〇〇円の予定ですが町内の方には一五〇〇円でお頒ちすることになりました。
- 代金は現品ができたとき引替えにいただきます。
- 各巻共菊版（16cm×24cm）八〇〇ページの豪華本であることをPR誌最後の写真の下に書入れてください。（町史編さん室）

労働保険料申告

説明会四月十二日

五月十五日まで保険料の申告と納付をしてください。なお説明会は次のとおり実施されます。

確定、昭和四十八年度概算保険料申告書の提出と保険料の納付は五月十五日が最終期限です。

労働保険加入事業場は必ず二場所桑折町福祉センター

お悔み申し上げます

（二月中に亡くなられた方 敬称略す）

死亡日	氏名	年齢	住所
2,5	笹木 麗サ	84	内谷 館脇7
5	一条 セツ	60	石母田上野一〇〇の一
6	大沼 ナツ	66	貝田 柿場20
14	室岡 ハツ	77	藤田 日渡二、1
18	実沢 トヨ	32	徳江 久保田6
19	由井 キミ	57	藤田 南5
24	菊地 廣	49	石母田中の内20

年中行事や民具をしらべる

△地区ごとにも民俗研究会△

歴史というとかく偉い人を中心とした政治や事件の記録が多く、もっと大切な一般民衆のようすはさっぱり書かれていない。わが国見町史は「町民の手による町民のための町民の歴史」を目標にしてその編集を進めている。したがってこれまで進めてきた資料調査、遺跡発掘に当ってはなるべく地域のみなさんの参加をお願いし、その内容も一般民衆の生活、精神を尊重するものを大切にしてきた。殊に町民の過去現在における生活の状況やその心情

を如実にあらわすものとして年中行事があり、民具がある。われらの先祖が生活や生産活動をするに当り、どんな道具を使い、どんな服装をし、一年間を通してどんな行事を行なってきたか、また現在行なっているか、こんなことを調べるためにみんな集まって話し合い、記録しようとするのが今各地区ごとに行なっている民俗研究会である。

これは、郷土史研究会が中心になり各小学校や農協支所などを借り、一〇〇名集会し県立工業高校三瓶源作、県文化センター藤田定典の両先生を講師として行なっている。これまでに小坂、藤田、森江野、大枝、大木戸と一巡し、今後大字単位に入って整理しようとしている。

出席者はそれぞれ各自家庭の年中行事表を作って提出することになる。

(写真大木戸地区民俗研究会)



明治学級だより



上手な年のとり方

話し合いと講演と映画

二月の学習

二月の学習会は二十六日午前十時から午後四時まで福祉センターで行なった。午前は五つの分科会にわかれ、「上手な年のとり方」について話し合いをした。助言者として田村操先生の外岩谷教育長、佐藤公民館長、熊田委員長、鈴木囀託の五氏を依頼し、野村隆一、奥山福太郎、高橋勇記、星野庄之助、安藤卯左衛門氏らが司会し小野寺省二、藤田勝衛、佐久間菊太郎、阿部重雄、吉田栄作氏らが記録。その内容は

○老人の幸せの条件
○健康を保つ方法

愛される老人となるための心構えについて一時間の講演があり、つづいてヨーロッパ旅行の折撮影してきた八ミリ映画の披露。これは先生が昨年九月三十日から十月十四日まで二週間ヨーロッパ各国を規察したときの記録映画だ。東京羽田からフランスカで給油、イギリス、フランス、オランダベルギー、西ドイツ、イタリア、スイスの主要都市をめぐってまた羽田に帰るまでの模様を丹念に撮影し、タイトルなども入れて巧みに編集、まことに立派なできばえ、それに先生特独の解説を加えながらの映写、約一時間で終り、満堂一二

○老人とお金
○老人の役割
と生きがい
○老人のレクリエーション

○老人の奉仕活動

○友愛訪問
など老人福祉の根本問題について語り合った。

午後は田村先生から、午前討議されたことをまとめ

○名の学級生たちをすっかり喜ばせてしまった。

三月の学習

三月は町議会の傍聴と蓬田康弘先生のお話。議会は十五日から六日間あるので各自都合のよい日に傍聴する。蓬田先生は桑折町出身、現在小田原女子短大の先生、健康問題について独特の研究をされている。ずっと前におもしろくてためになるお話をおききしたことを

おぼえている人も多いことと思う。今年度のしめくくりとしてお伺いすることにした。

記
時 三月二十九日(木)
午前十時から
福祉センター
講師蓬田康弘先生
題 老人をめぐる諸問題
○ 風食持参のこと
(↑写真上は上手な年のとり方について話合う)

あつかし俳句会(二月十七日)

兼題「早春」 「犬ふぐり」 席題「ふきの苔」

- * 早春や蒼穹の鳶笛を撒く 早田 灰鳥
- * 妻とゆく早春の譜や水仙寺 奥山 甲二
- * 酒酌めば故郷恋しのふきの苔 斎藤黄鶴楼
- * 早春の風よ光よせせらげらる 一 陽
- * 早春や椿の蕾尚堅し たかし
- * 早春や物忘れ癖ややはげし 勝エ
- * 早春やみごもりしこと未だ告げず 正雄
- * 早春の耕す鋤の先光る 正一
- * 杖ついて登る坂道ふきのとう 痴仏
- * 受話機置く早春の便りよく透る 雨田
- * 参道に水音高しふきのとう 葛水
- * 早春やハウス大戸をまだ固く 夢泉
- * 早春の日を翻し朝の鳩 亭司
- * 早春や暮色の街に若き声 吐絹
- * せせらぎの濁りを見せて早春譜 昭子
- * 我が山の刻々変える早春譜 昭子
- * うたたねもあり早春のバスの中 秋子
- * 早春の校庭の空ポール飛ぶ かね子
- * 早春や老母の髪を梳る 栄子
- * ふきの苔紙のコップに積みきれず